



機能の概要

外部請求書のテスト環境を継続的にサポート

コンテンツオーナー: Francisco Bonett

一般提供予定: 2023 年第 1 四半期

説明: 外部請求書のテスト環境を継続的にサポート

今までの課題

- 外部タックスインボイスフローに対して行われたローカリゼーションにより、継続的にテスト環境をサポートする上で見過ごせない制約が発生しています。
- バイヤーとサプライヤは、本稼動後にテスト目的で本稼動の税 ID を使用することができません。税 ID は、対応する Network バイヤー/サプライヤアカウントに外部タックスインボイスをリンクするために使用されます。
- ブラジルおよびメキシコでは、テスト設定と本稼動設定の両方で、サプライヤから電子メール経由で送信されるタックスインボイスを受信するために汎用のメールボックス 1 つのみが管理されています。



説明: 外部請求書のテスト環境を継続的にサポート

機能の説明

- SAP Business Network により、すべての受信チャンネルにまたがって本稼動アカウントとテストアカウントへの外部タックスインボイスのルーティングおよび割り当てを行うためのより優れた強力なソリューションが提供されるようになります。
- バイヤーとサプライヤは、それぞれの本稼動アカウントまたはテストアカウントで税 ID を使用することができます。
- 該当する国における電子メール経由でのテストとしてメールボックス invoicereceiver-test@ansmtp.ariba.com が有効化されています。
- Network アカウントを決定するための以下のロジックが改善されています。
 - 環境の決定
 - レルム内での適切なアカウントの割り当て

主なメリット

- 本稼動後に、それぞれの国の請求書フローをさらにテストすることができます。
- タックスインボイスがレルムをまたいで存在したり、誤った環境に送られたりするリスクが解消されます。
- 国ごとの電子メール経由のテストフローが円滑化されます。

対象ユーザー:

バイヤーおよびサプライヤ

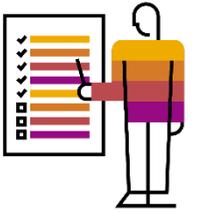
イネーブルメントモデル:

自動的に有効

対象ソリューション:

SAP Business Network

有効化の手順および注記

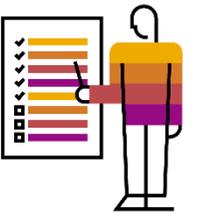


1. バイヤーの税 ID は、管理アプリを使用して本稼動アカウントで設定します (現在と同じ)。この処理をテストアカウントで行う必要はありません。
2. テストアカウントおよび本稼動アカウントを使用して、サプライヤごとに個別のレコードを作成してアップロードします。テストアカウントの場合、ベンダアップロードプロセスを通じて税 ID に「-T」を追加する必要があります。
3. 本稼動環境の設定は、バイヤーの権限およびビジネスルールを含め、現状のままとなります。
4. バイヤーは、受信した請求書に対応する ERP システムレームにルーティングするための適切な方法を確保する必要があります。
 - テストの請求書は「-T」が付けられていない税 ID に対応していますが、テストでも本稼動でも、出力として cXML ファイルを使用して「-T」が追加されていない税 ID を管理することもできます。
 - ベンダアップロードによる以前の設定が実行されている場合、cXML にはサプライヤ詳細も含まれます。

管理アプリ

The screenshot shows a web application interface for managing tax IDs. It features a table with columns for 'Tax ID', 'Tax Country', and 'Actions'. There are three rows of data, each with a 'Tax ID' field, a 'Tax Country' dropdown set to 'Mexico', and an 'Actions' button. Below the table is an 'Add New Tax ID' button.

Tax ID	Tax Country	Actions
<input type="text"/>	Mexico	Actions
<input type="text"/>	Mexico	Actions
<input type="text"/>	Mexico	Actions



前提条件、制限事項、注意事項

前提条件

- サプライヤが有効化され、税 ID を含め、タックスインボイスの用途に対して最新の情報で適切に設定されている必要があります。

制限事項

- 税 ID は、1 つの Network アカウントにのみ割り当てられるように、各サプライヤに対して一意である必要があります。
- テストサプライヤの場合は、「-T」を追加した税 ID を使用する必要があります。
- この機能は、まだシステムタイプ (環境) のパラメータを管理していないパートナーとのチリおよびイタリアの統合フローには適用できません。

注意事項

- SAP Business Network のサプライヤアカウントまたはバイヤーアカウントを誤って設定すると、請求書を割り当てる適切なバイヤーまたはサプライヤアカウントを特定できないため、請求書の処理を行えなくなることに注意してください。
 - 税 ID が重複している場合や、OTI または VTI テーブル内のデータが破損している場合はエラーが発生します。
 - 機能 CFDI 4.0 が有効化されていない場合はエラーが発生します。
 - 設定されていないサプライヤに対して簡易サプライヤ登録オプションが無効になっている場合は処理が行われません。

VUF 内の税 ID フィールド

Tax ID
Required if Vendor ID is empty
String 256
Ariba Network does not validate this field.
REM1 G6-T

電子メールチャネルの使用例

現在

- 税 ID を使用してベンダアップロード経由でテストサプライヤを設定しています。
- テストの請求書と本稼働の請求書の両方が単一のメールボックス (invoicereceiver-prod@ansmtp.ariba.com) に送信されます。請求書を割り当てる環境はシステムによって決定されます。
- 本稼働に移行するには、サプライヤのテストアカウントから税 ID を削除し、ベンダアップロード経由で本稼働アカウントに税 ID を割り当てる必要があります。バイヤーアカウントの場合も同様です。
- 現在、本稼働の請求書が送信されるメールボックスは、本稼働のバイヤーレームに接続されているため、同じメールボックスをテスト用として使用することはできません。
- 管理されているメールボックスは 1 つのみであるため、本稼働環境にテストの請求書が含まれている可能性があります。

今後

- -Tを追加した税 ID を使用して、ベンダアップロードファイル経由でテストサプライヤを設定します。
- テストの請求書は、有効化された新しいメールボックス (invoicereceiver-test@ansmtp.ariba.com) に送信されます。
- 本稼働に移行する場合、「-T」が追加された税 ID はそのままにしておき、実際の税 ID を使用してベンダアップロード経由で本稼働アカウントを設定します。
- 本稼働の請求書の送信先としてメールボックス invoicereceiver-prod@ansmtp.ariba.com が使用されます。テストメールボックスは、引き続きテスト用として使用することができます。
- 使用されるメールボックスに基づいて、該当する環境が決定されます。

注: このチャネルを使用できるのは、現在、ブラジルやメキシコなどの国のみとなっています。

手動アップロードオプションの使用例

現在

- 税 ID を使用してベンダアップロード経由でテストサプライヤを設定しています。
- サプライヤは、外部タックスインボイスをアップロードするためにテスト用の Network アカウントにアクセスする必要があります。
- 請求書は、対応する設定済みの税 ID を使用して検証され、バイヤーアカウント (テストまたは本稼動) に送信されます。
- 本稼動への移行後は、すべての請求書が本稼動のバイヤーアカウントに送信されます。そのためテスト環境は使用できなくなります。

今後

- テストサプライヤは、-Tを追加した税 ID を使用してベンダアップロード経由で設定します。
- サプライヤは、外部タックスインボイスをアップロードするためにテスト用の Network アカウントにアクセスする必要があります。
- 請求書が検証され、サプライヤのアカウントの種類に基づいて環境 (テストまたは本稼動) が決定されます。テストの場合、ドキュメントはバイヤーのテストアカウントに送信されます。
- 本稼動への移行後は、すべての請求書が、アップロードに使用されたサプライヤアカウントの種類に基づくバイヤー環境に送信されません。そのためテスト環境は引き続き使用することができます。

注: このチャネルを使用できるのは、現在、メキシコなどの国のみとなっています。



統合チャネルの使用例

現在

PEPPOL を導入している国

- Peppol 請求書フロー向けの SAP DRC のアクセスポイントとの統合では、テストレムと本稼動レムが考慮されます。

チリイタリア

- テストの請求書は、統合チャネルを通じて受信され、各ドキュメント内で受け取る税 ID に基づくテストバイヤーアカウントにルーティングされます。
- 本稼動に移行するには、サプライヤのテストアカウントから税 ID を削除し、ベンダアップロードファイル経由で本稼動アカウントに税 ID を割り当てる必要があります。
- 受信したタックスインボイスは、本稼動バイヤーアカウントに送信されます。

今後

PEPPOL を導入している国

- 現在と同じですが、テストサプライヤの設定は、-Tが追加された税 ID を使用してベンダアップロードファイル経由で行う必要があります。**これは引き続きテストする必要があります。**

チリイタリア

- すべて現状のままです。そのため、本稼動環境と同じ税 ID でテストレムを使用することはできません。

ありがとうございました。

フォローをお願いします。



www.sap.com/contactsap

© 2022 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。特に、SAP SE 又はその関連会社は、本書若しくは関連の提示物に記載される業務を遂行する、又はそこに記述される機能を開発若しくはリリースする義務を負いません。本書、関連プレゼンテーション、および SAP SE またはその関連会社の方針および予定されている将来の開発、製品、またはプラットフォームの方向性および機能は、すべて変更される可能性があり、SAP SE またはその関連会社は随時、理由の如何を問わずに事前の予告なく変更できるものとします。本書に記載する情報は、何らかの具体物、コード、若しくは機能を提供するという確約、約束、又は法的義務には当たりません。将来の見通しに関する記述はすべて、さまざまなリスクや不確定要素を伴うものであり、実際の結果は、予測とは大きく異なるものとなる可能性があります。読者は、これらの将来の見通しに関する記述に過剰に依存しないよう注意が求められ、購入の決定を行う際にはこれらに依拠するべきではありません。本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。商標に関する情報および表示の詳細については、www.sap.com/trademark をご覧ください。